

●フジタホール2000●
アセンブリ フェスティバル
Assembly 1996 Festival

第7回 市民合同
音楽フェスティバル
合唱コンクール



開かれた音楽の殿堂に、集い、共に歌おう



日時：1996年10月27日(日)

9:00開場 9:30開演

会場：フジタホール2000

■主催 藤田保健衛生大学

■後援 中日新聞 愛知県教育委員会 豊明市教育委員会

審査委員長プロフィール



石井 歓

いし い かん
石井 歓

作曲家・愛知県立芸術大学名誉教授。

西独ミュンヘン国立音楽大学にて、カルル・オルフ教授をはじめフリット・レーマン教授、アイヒホルン教授に作曲、指揮法を師事。創立期の桐朋学園音楽大学に十年間、その後、愛知県立芸術大学・音楽学部教授及び学部長として建設時より、教育並びに大学運営にあたる。

(社)全日本合唱連盟・理事長として、長期にわたり、音楽文化の向上のため音楽社会活動を行なう。

■主な作品

管弦楽曲：「前奏曲」NHK音楽コンクール・管弦楽部門・第一位受賞。「シンフォニア・アイヌ」芸術祭賞(TBS)。今上天皇「皇太子ご成婚祝典序曲」ほか多数。

オペラ：「袈裟と盛遠」「役の行者」「カントミ」「女はすてき」「青獅子」ほか。

バレエ：「神とバヤデーレ」「まりも」「令嬢ジュリー」ほか。

合唱曲：「枯木と太陽の歌」「風紋」「少女のいる画集」ほか。

その他、器楽作品、吹奏楽作品「大いなる秋田」ほか。

映画音楽：「妖星ゴラス」「どぶろくの辰」「野党風の中を走る」「暴れ豪右衛門」ほか多数。

■受賞

昭和59年(1984) 紫綬褒賞。

平成元年(1989) 秋田県県民栄誉賞。秋田県山本町特別功労賞。中日文化賞。

平成5年(1993) ポーランド共和国・一等勲章“国家功劳・黄金十字賞”。東海テレビ文化賞。

平成6年(1994) 黙三等・瑞宝賞。

■作品に関する賞

文部省芸術祭賞・二作品受賞。文部省芸術祭奨励賞・六作品受賞。民放祭音楽部門・第一位受賞(TBS)。

■現職

愛知県立芸術大学名誉教授。(社)全日本合唱連盟名誉会長。玉川学園学術教育研究所客員教授。東京文化会館・東京芸術劇場運営審議会委員。名古屋フィルハーモニー理事。浜松市音楽顧問。

審査委員プロフィール



みずたに しゅんじ
水谷 俊二

声楽を伊藤直行、指揮法を山田一雄に学ぶ。ミュンヘン、ウィーン音大にて発声法とドイツ語を研修、現在愛知教育大学教授。

声域はバリトン、NHK-FMに於いてシーベルト、シューマン、ベートーヴェンの歌曲を3回にわたり放送する。また名古屋フィルハーモニー交響楽団との共演に於いては、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、ブラームス「レクイエム」、マーラー「第8番」、ベートーヴェン「第9」、ロッシーニ「スタバート・マーテル」、バッハ「マタイ」などソリストとして出演している。オーケストラ付歌曲ではマーラー「さすらう若人の歌」「リュックル歌曲」を独唱している。マーラーの歌曲は1994年愛知県芸術文化会館で再演。

合唱指揮では中部日本放送合唱団の指揮を4年、名古屋少年少女合唱団を指揮し、5回の海外公演を行っている。

最近ではバッハ「カンタータ」をチェンバーボーカルとニューイヤーコンサートでは名曲でオペラアリア「夕星の歌」(タンホイザーより)を独唱。今年12月24日しらかわホールで名古屋少年少女合唱団クリスマスコンサート。来年1月24日には芸術ホールにてベートーヴェンのミサ、バリトン独唱。3月にはシーベルトのミサ、バリトン独唱が予定されている。



かとう のりこ
加藤 典子

昭和53年度名古屋市芸術奨励賞受賞。

平成3年安城文化功労賞受賞。

平成5年度愛知県芸術文化選奨受賞。

伊藤直行、伊藤京子、木下武久の各氏に師事。

オペラ「フィガロの結婚」「セヴィリアの理髪師」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「奥様女中」「ドン・ジョヴァンニ」「修禅寺物語」「ちゃんちき」「蝶々夫人」「三文オペラ」「ボーギーとベス」「ヘンゼルとグレーテル」その他の可憐な主役を演じ、また、モノオペラ：ブーランクの「声」、メノッティの「電話」等、常に好評を得ている。

数回のリサイタルのほか、名古屋フィルの定期演奏会「第九交響曲」、マーラーの「千人の交響曲」、バーンスタインの「ミサ」、ネオゲルの「火刑台上のジャンヌダルク」、多くの「ミサ曲」などの宗教音楽、その他地元合唱団のソリストとして数多く客演し、その実績は名声とともに実力の程を窺わせる。

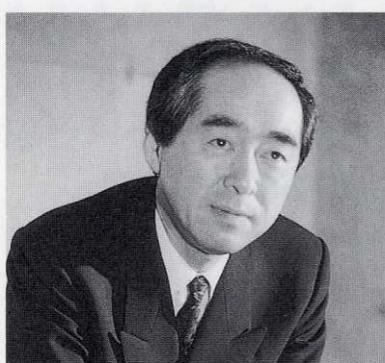
NHK-FM「午後のリサイタル」「夕べのひととき」、中京テレビ「ミュージック・ドリーム」「サンデー・コンサート」など放送界においても活躍。ここに13年間歌い続けたNHKの幼児番組「ピッポ、ピッポ、ポン、ポン」の「うたのおねえさん」での経験から、音楽の底辺拡大というライフ・ワークを自覚、小学・中学・高校への学校訪問演奏に、また、アマチュア合唱団の育成・指導に力をそいでいる。全日本学生音楽コンクール、NHK合唱コンクール、CBCこども音楽コンクール等の中部地区における審査員としても活躍。

東芝レコードから<加藤典子、こころのうた>が発売されている。

昭和62年3月中国(北京・上海)・平成元年12月ボーランド(ワルシャワ・クラクフ)・平成3年12月中国上海管弦楽団と上海センター劇場にて共演し好評を博す。平成5年6月35周年記念リサイタルを愛知県芸術劇場コンサートホールで行う。7月ボーランドのクドバア・ズドゥルイで行われた第32回モニウシュコ・フェスティバルに招待され、ショパン、モニウシュコ等を歌い好評を博し、ボーランドと日本との交流を深めた。また、1996年6月35回モニウシュコ・フェスティバルに再び招待され、日本の歌とモニウシュコを歌い好評を博した。

現在 女声合唱団"コロ・アマーピレ" "かの子会"、刈谷混声合唱団正指揮者。安城音楽協会理事長。

名古屋二期会名誉会員。



たなか しょうぞう
田中 省三

現在、名古屋音楽大学助教授、藤田保健衛生大学客員教授。カンマーザール芸術文化協会理事長。日本演奏連盟会員。日本音楽教育学会会員。愛知県立芸術大学卒業、同大学院修了。ベルリン国立音楽大学に留学。リサイタル、オペラ、各種のコンサートに多数出演の他、名古屋フィルハーモニー交響楽団、ナゴヤシティ管弦楽團らオーケストラとの共演も多い。各地の市町村での演奏や講演、企画制作などにも数多く関わる一方、養護学校や施設などの質の高いボランティアコンサートにも積極的に取り組み高い評価を得ている。また、各地の合唱団の指導・育成にも力を注ぎ、合唱の分野においても指揮、審査員などで幅広く活躍している。アメリカ公演、中国公演などでも多くの成果を収め海外公演での実績も広く認められている。1990年にカンマーザール芸術文化協会を結成し、1991年に音楽専用ホール「カンマーザール」を創立。1995年より「稲沢国際音楽祭」をプロデュース。クラシック音楽をより身近にという独自のプロデュースを展開し、広く一般の人々に新しい音楽空間を提案している。1996年にはアメリカ・ニューヨーク州シラキュースにてコンサートを開き好評を得ている。本年11月にはNHK中部ブレーンズの企画でスペイン公演が予定されている。

合唱コンクール

司会：松田真谷子

〈午後の部〉(13:00~15:10)

33. 東西四大学 OB 合唱団

ミュージカル「学生王子」より
“Golden days” ほか

指揮：稻熊裕之
ピアノ：上谷美也子

作詞：二期会
作曲：ロンバーグ

出演者名簿

●東西四大学 OB 合唱団

Conductor	佐々木正義
稻熊裕之	三ッ松平
Pianist	高津真司
上谷美也子	高橋克夫
Top Tenors	田中良夫
池田研一	野上幸市
小澤直樹	崎道昭夫
片田保彦	向川原慎一

Second Tenors

新谷岳史	清夫
石井泰司	司
黒田恭	道昭
近藤道	夫
柴田雅	譲
洲崎瀬	
間瀬	

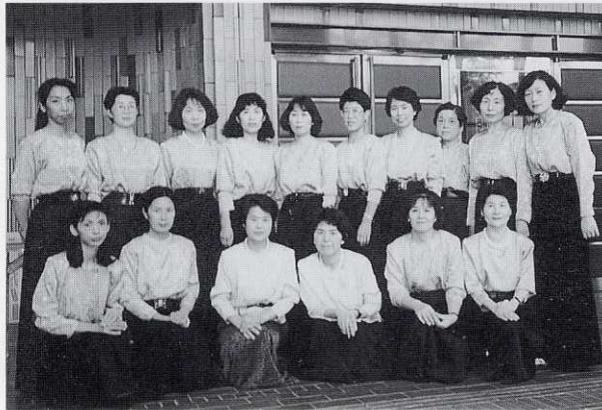
Three Basses

口勝久	也之三郎	高田勝市
Baritone	伊東哲	高塚本松
木葉泰	木佐々木章	瀬嘉夫
佐々木	高田	弘
木	塚	瀬
葉	本	嘉
泰	松	夫

Basses

浅井良	之敏	藏道	弥夫
井口貴	ノ	輝和	
井野輝	科館永	和幹	嘉
野合	崎	幹	夫

菊住コーラス

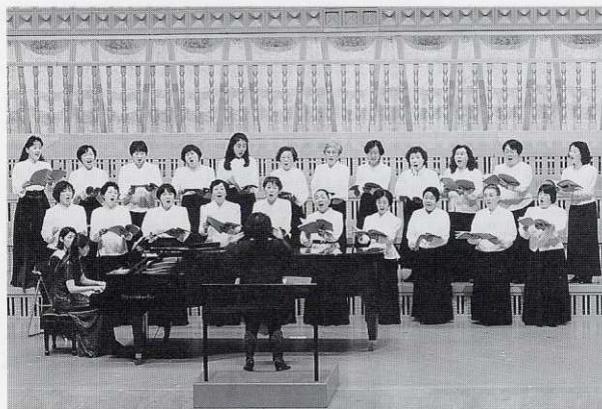


菊住コーラスは、名古屋市南区の菊住小学校のPTAコーラスとして発足して、23年たちます。

毎週土曜日の午後のひとときを皆楽しく練習に励んでいます。

フジタホール2000のこの素晴らしい舞台に立ちたいとの思いに、みごと出場権獲得。小人数ながら精一杯歌いますので、どうぞよろしくお願ひします。

朝日女性コーラス



朝日女性コーラスは、結成以来40年を越える合唱団です。

発足当時からずっと歌っている人も、新しく入ったばかりの人も、それぞれの持ち味を生かしながら、毎週火曜日の午前中、コーラスを楽しんでいます。

そんな私達を、気長に少しずつ引っ張り上げて下さるのが、指揮の谷鈴代先生とピアノの村瀬啓子先生です。

今回はこの響きのよいフジタホールで歌うことを想定して、アカペラの曲に取り組んできました。声のみで表現することの難しさと共に、今までいかにピアノに助けられていたことか、ひしひしを感じています。

今日は、「今までで一番よかった。」と言えるような、そして、心に響くような演奏ができれば、と思います。

東西四大学 OB 合唱団



昨年に続き2度目の出場です。昨年は審査の先生方に「あと10回練習してくれれば…」ときついお言葉を頂き、それに応えるべく今年は正に血を吐く練習をしてフジタホール2000のステージに戻ってきました。

東京と関西の4つの私立大学の男声合唱団のOBが集まって結成されたのが我が合唱団ですが、メンバーは本当に様々です。卒業以来何十年ぶりかに歌う者、練習に満足に参加できず血を吐かなかった者、ひたすらカラオケ道に走り人の歌っているメロディにただただハーモニーをつける事をこの上ない喜びとする者、各地の市民合唱団などでまじめに合唱に取り組んでいる者等々。

とにかく今年は昨年と意気込みが違います。来年は昨年、今年のようにドキドキするくじではなく、シード出場をしたいと思っています。

果たして演奏はどうか…。